

2018年11月19日 中日新聞「模擬国連全国大会」

中 一 案 料

2018年(平成30年)11月17日(土曜日)

「武器移転」について話す河合さんと山田さん=松本市埋橋の松本秀峰中等教育学校で

松本秀峰中教校 河合さん、山田さん



国連の国際会議を想定して、国際問題などを議論する「第十二回全日本高校模擬国連大会」が、東京都渋谷区の国連大学本部で十七日から二日間行われ、松本秀峰中等教育学校（松本市埋橋）の高校一年、河合輝さん（もと山田真緒さん）が出席する。同校からの出場は一〇一五年に続き二回目。（北村祥之）

模擬国連は国際的な問題をテーマとして担当国の立場からテーマごとに、各校二人一組とについて意見を述べ、議論しなった参加者がそれぞれ一つで全体として一つの国連決議の国を担当。その国の大天使と案にまとめる。

「模擬国連大会」で全国へ

きょうから「武器移転」テーマに議論

事前の書類審査では、地球の水問題に関する日本語の課題図書の要約や意見論述、「意見の対立と協調」についての英語でのエッセー問題が課された。全国三百五十五チームの応募があり、八十六チーム百七十一人が出場する。

将来国際的な機関で働き、世界の問題解決の力になりたいと話す河合さんは「全国の高校生と国際的な問題について議論を交わすことで、国際的な視野や考え方を学びたい」と意気込みを語った。

山田さんは、米国での一週間の語学研修やフィリピンでの二週間のボランティア活動を通して世界の貧しい子どもたちや苦しんでいる人たちを助けたいと言い、「模擬国連を通して自分とは違う価値観を持つ人と交流することで、新しい知識や考え方を自分のものにして、将来に生かしたい」と話した。